

与論島をどう活性化したらよいか？

教育学部 保健体育専修 0713570205

中野 啓介

今回、私は初めて与論島に行きました。正直に言うと、友達にこの講義について教えてもらうまで与論島について何も知りませんでした。しかし、講義の内容を教えてもらい、海がきれいで行ってみたいと思いました。そして、この与論島での講義や経験は想像していたよりもはるかに楽しく貴重なものでした。民族村を見にいたり、与論島での農業や漁業についての講義は知らないことが多くありました。

農業については雨がほとんど降らなく台風が接近した時だけ降ると聞いたときは驚きました。また、マンゴーを育てることができるのも意外でした。台風が接近すれば雨が降りますが、ビニールハウスや牛舎などが壊れたり被害を受けるのは大変だと思いました。漁業では、市内に出荷するのが時間がかかり難しいということを知りました。

与論島を活性化するために非常に重要なもののひとつは「観光」であると思います。島内のイベントでは、ヨロンマラソンやグラウンドゴルフ、音楽イベント、人生ゲーム島・ヨロンなどを開催しています。ヨロンマラソンでは終わった後に、来年の宿舎の予約をする人がいると聞いて驚きました。また、修学旅行の誘致活動をし、1島1校を基本として、歓迎の入島式からお別れのテーブルまで、来島される生徒たちの一生の思い出として残るように、宿と行政・観光協会などが一体となって受け入れ態勢を整えたりしています。このような様々な取り組みをしている中で私は与論島・沖永良部島・奄美大島の三つの島でなにか取り組むことができないかと考えました。講義の中でも三つの島で何か取り組むことができないかという話題がでており、この三つの島だけで使える通貨のようなものを作ればよいという案がでていました。そのような通貨を作り、三つの島のどれか二つ、あるいは三つの島を訪れる人には何か特典などをつければ観光客が増えるのではないかと思います。旅費を少し割引したり、通貨をつけたりなど。与論島での数日間でもう少しお店やビーチなどの看板があるといい

なと思いました。どこかに行くときにあまり看板がなく、道に迷ったり、この道であっているのか不安になることがありました。また、公衆のトイレがもう少しキレイだといいなとも思いました。私は与論島で様々な経験をすることができました。島に行ったのは初めてで海で泳いだこともありませんでした。溺れて死にかけたことも今となってはいい思い出です。将来は与論島のような島でゆっくりとのんびり穏やかに暮らしたいと思っています。そのためにも、今回の経験を活かして大学でも頑張りたいと思います。

